



利害関係者と会社の羅針盤を共感する秘密兵器として活用

- ・社員に対しては、社長が船長の「大和丸」の現在地と目的地を共有する手段（社員は自分のミッションに応えることで精一杯なので、海図が必要）
- ・社外の取引先に対しては、「大和丸」を正確に理解してもらう情報発信機（社外の方は、会社の一面だけみて、偏った判断をする場合が多い）

◆ ディスカッション

- ①経営幹部全員が「自社の特徴」や「自社の課題」と感じている点をポストイットに書き出し、一人ずつ順番に説明しながら模造紙に貼り付け。
- ②貼り付けたものをグルーピング。
- ③社内の歴史の振り返りを含め、これまでの自社について議論。

◆ デザインシートを作成

幾度となく議論やドラフト作成を重ね、将来の事業ポートフォリオや経営方針に基づく案を作り、更に、外部の有識者を交えて、将来どのような会社でありたいかを議論して完成

経営デザインシートを活用した感想・効果

- ・幹部や社員が、日々の業務に取り組むとき、部門の目標を考えるとき、立ち返って考えることの出来る拠り所が出来た
- ・新たな分野へ挑戦する時の戦略・戦術・作戦を立てる際の骨太方針として役に立つ
- ・コンパクト且つ網羅性のある構成のため、金融機関、公的機関、大企業等の経営者に対し、短時間で我が社のことを説明することが出来た
- ・淡白な四字熟語の経営理念よりも、社員にとって具体的にイメージしやすいと思う



シート活用活性化に向けて、更に期待したいこと

- 社員全員で創り上げるのは理想だが、中小企業単独で、満足できるレベルのシートを作成するのは殆ど無理。外部の善き指南役が、サポートをする仕組み作りが必要
- 例えば政策金融公庫や中小機構等、公的機関の中小企業診断士とコラボするのも妙手一度作って、飾ってお仕舞では勿体ない。例えば、シートに掲げた項目をブレークダウンして、日常の業務に繋げる方法を伝授する、2年ごとにローリングするための手法も継続的にレクチャーしていく、或いは、戦略マップ作りを行う時のたたき台にする等、通常の業務や戦略策定で活用されることが大切かと思う



◆ 我が社の活用例 ◆

- ①デザインシートでの議論をベースに、中小機構のサポートの下、経営理念を実際の業務に落とし込む戦略マップを作成中
シートに記載された「10年後のありたい姿や、我が社の強み・弱み等」を理解したからこそ、具体的な戦略作りを効率的に進めることが出来ている
- ②デザインシートを職場の壁に貼っている係もあり